

# 博士課程教育リーディングプログラム 令和元（2019）年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成25(2013)年度		
機関名	早稲田大学	全体責任者（学長）	田中 愛治
類型	複合領域型（情報）	プログラム責任者	須賀 晃一
整理番号	R04	プログラムコーディネーター	菅野 重樹
プログラム名称	実体情報学博士プログラム		

## <プログラム進捗状況概要>

### 1. プログラムの目的・大学の改革構想

本プログラムは、情報技術が持つコンピューティングベネフィット（計算の効果）、通信技術が持つネットワークベネフィット（資源共有の効果）、機械技術が持つボディベネフィット（実在と力の効果）の複合的価値創出を指向する中で、医療・環境エネルギーといった重要分野におけるアプリケーションベネフィット（問題を解くこと自体の直接的価値）を導く、「実体」と「情報」の融合学としての「実体情報学(Embodiment Informatics)」を構成し、この新学術領域におけるイノベーションを先導する、先見力、構想力、突破力を兼備した人材を輩出することを目指すものである。これらの力を、海外での異分野交流を含む数々の実習プログラムを通じて与えることで、産業創出を様々な立場で支え、世界を牽引する人材を育成する。そのために、二つの新しい枠組みを用意する。一つ目は、「工房」という教育研究の場である。特定の研究室で研究活動を行うのではなく、共通の空間で常にコミュニケーションを取りつつ、異分野融合の元での研究を効果的に遂行可能になる。本学では、既に同様のスタイルを1980年代から一部で実施している。これは、これまでの大学院教育のスタイルを大きく変えるものであり、本プログラムではこれを明確な大学院の枠組みとして用意する。二つ目は、リーダー養成の5年一貫プログラムを従来型の大学院（2年+3年）の枠組みの中に組み込むことである。大学院教育改革の中核となる5年一貫の新しい大学院教育プログラムとして、本学の教育体制全般の完備化の重要な柱と位置付けている。

## 2. プログラムの進捗状況

本プログラムの実施基盤である「実体情報学コース」のカリキュラムの実行、国内外の機関と連携した各種イベントの開催、QE等による質の保証への取り組みなどを推進し、本プログラムにおける学位授与を行った。主な活動の進捗状況は以下のとおりである。

- (1) 優秀な学生獲得の強化策として、昨年度秋学期から、本プログラムへの進入を検討している修士学生を対象に、半年間「工房」での活動や本プログラム設置科目の見学などを行う「体験生」制度を新設した。面接試験に合格して半年間の工房での活動を体験した修士2年生1名が、本年度4月より、L3編入生としてプログラムに正式に進入した。また、プログラム説明会を計2回（5月、12月）、9月進入生向けと来年度4月進入生向けに開催した。更に、本プログラム進入者だけでなく博士進学者を増やすことを狙って昨年度から始めた取り組みとして、本プログラム修了生を招聘して「博士進学と就活セミナー」を12月に開催した。2月に実施した選抜試験では、来年度4月からのL3編入生2名の受け入れを決定した。
- (2) 学修・研究活動に専念できるよう、奨励金を14名に、推進研究費を13名に支給したほか、海外研究機関訪問や論文投稿などにかかる費用を補助・支給する経済的支援を継続して行った。
- (3) 企業経験や研究経歴の豊富な実績を持つ人材を教員として雇用（常勤：7名、非常勤：8名）し、本プログラム独自の必修科目の講義やプログラム生共通の学舎「工房」での活動への日常的な指導にあたらせた。
- (4) 必修科目「海外インターンシップ」として、エディンバラ大学（英）、エヌビディアコーポレーション（米）、マサチューセッツ工科大学（米）などに7名（うち1名は昨年度からの継続）を派遣した。
- (5) 異分野交流を通して先見力、構想力、突破力を獲得させることを狙って、企業や大学から様々な分野の研究者・技術者を招聘してコロキウム（8回）を開催し、第一線で活躍する研究者と密にディスカッションする機会を設けた。
- (6) 学生ごとに、L1及びL2には主指導教員1名、副指導教員2名、産官からの適任者1名の4名、L3以上にはさらに海外からの適任者1名を加えた5名からなるアドバイザーチームを編成して、複数指導体制を構築した。対象学生のアドバイザーチームを招集して、それぞれのQualifying Examinationを実施して、質保証を図った。
- (7) 本プログラム及び本プログラム生の活動を広く知らせるために、年報の発行などの広報活動に取り組んだ。また、各種イベントやプログラム説明会の開催、学生募集などの告知を、ホームページ等を活用して行った。
- (8) 他大学と連携した活動として、平成27年度から実施している筑波大学エンパワーメント情報学プログラムとの合同サマースクールを、10月に本プログラムの「工房」にて実施した。また、同じく平成27年度から継続している平成25年度・複合領域（情報）に採択の4大学の連携について、来年度以降の活動などについて、プログラムコーディネーター、担当教員間で意見交換を行った。
- (9) プログラム修了に必要な単位について、プログラム生の負担軽減を図る観点から語学科目を中心に見直しを実施し、昨年度までの50単位から42単位に削減した。
- (10) 支援期間終了後の来年度以降のプログラム継続について教務部と協議し、必修科目「海外インターンシップ」の必要経費、工房の維持、専任教員（任期付き）の配置などを確保した。